

## 推進方向 8

# 児童生徒の『生き抜く力』を育成する生徒指導体制の充実と教職員の の人材育成

---

児童生徒一人ひとりの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるため、生徒指導体制を充実するとともに、教職員の資質・能力の向上を図り、児童生徒の夢の実現を支援する学校づくりをめざします。

### これまでの取組と課題

生徒指導体制の充実については、各関係機関との連携による組織的な生徒指導体制の強化を図り、開発的・予防的生徒指導を推進してきたことから、中学校における暴力行為発件数の減少等、一定の成果は表れています。しかしながら、小・中学校における不登校出現率は増加傾向にあり、また、いじめ事案も多様化・複雑化しています。

今後も、生徒指導上の諸課題への取組を充実していくために、開発的生徒指導<sup>※</sup>のさらなる推進を図るとともに、学校・家庭・地域・関係機関等が連携した取組が必要です。

教職員の人材育成については、教育研究センターにおいて、「若人の会」研修会や人材育成会議を開催し、臨時的任用教職員を含む若年教職員の資質・能力とともに、中堅教職員・管理職の学校管理・運営に係る資質・能力の向上を図りました。

今後は、これらの研修が一層充実するよう、出張型研修から訪問型研修への見直しや、実施回数や期日の工夫などの改善を進める必要があります。

◇ 対象施策 ◇

組織的・開発的な生徒指導体制を構築するとともに、不登校児童生徒に対する支援体制を強化します。

◆ 重点事業 ◆

◎ 組織的・開発的な生徒指導体制の充実

生徒指導に関する研修を充実するとともに、校内での一層の情報の一元化と共有を図るなど、組織的な生徒指導体制を構築します。

小中連携の取組により児童生徒に対する理解を深め、9年間を見通した開発的な生徒指導や教育相談を推進します。

いじめ防止基本方針に基づき、学校・家庭・地域、関係機関等との連携のもと、いじめ問題の克服に向け、未然防止や早期発見の取組を充実するとともに、問題行動や不測の事態への対応に当たっては、周南市教育研究センターによる支援や学校運営協議会の活用など、組織力や危機対応能力の強化に努めます。

◎ 不登校児童生徒支援の強化

周南市教育支援センター、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等との連携により、不登校児童生徒に対する学校復帰に向けた支援と学習支援の一層の充実を図るなど、一人ひとりを見守り育む体制を整え、きめ細かな支援を行います。

◎ 安全管理体制の確立

学校安全の3領域<sup>\*</sup>や学校危機対応に関する校内研修を積極的に進めるとともに、学校評価等を通じて、P D C Aサイクルを活用した安全管理体制の見直しを行うなど、学校安全計画と危機管理マニュアルに基づいた安全管理体制の充実に努めます。

◎ 多様化する学校危機に備える取組の強化

児童生徒が自他の生命尊重を基盤として行動し、地域社会の一員として社会の安全に貢献できるよう、家庭・地域と連携した防災訓練、「周南市通学路総合安全プログラム」の活用や危険予測学習（K Y T）の実施など、多様化する学校危機に備える取組を強化します。

◇ 対象施策 ◇

周南市教育研究センターによるキャリアステージに応じた実践的な研修を充実し、教職員の資質能力のより一層の向上を図ります。

◆ 重点事業 ◆

◎ 若年教職員の資質能力の向上

周南市若手教員育成ビジョンに基づき、教育研究センター主催による「若人の会」研修会を開催し、臨時的任用教職員を含む若年教職員の資質能力の向上を図ります。

◎ 中堅教職員・管理職の資質能力の向上

中堅教職員や管理職を対象とした、教育研究センター主催による研修会の開催や訪問支援を実施し、学校管理・運営に係る資質能力の向上を図ります。

◎ 各校の学校運営への支援

管理職との日常的な相談体制を構築し、学校の危機管理対応への支援を行います。また、上席研究員が学校を訪問し、目標管理型の学校評価の活用等について助言することにより、学校の運営組織体制や指導体制の改善・充実を図ります。また、ICT環境を有効に活用し、より一層の学力向上を図るため、ICT専門の上席研究員が、学校の実情に合わせた効率的な情報管理を推進します。

◇ 対象施策 ◇

教職員のワーク・ライフ・バランス※の推進を図るとともに、教員が本来担うべき業務に集中できる環境づくりに努めることができる教員の働き方改革を推進します。

◆ 重点事業 ◆

◎ 学校における働き方改革の推進

授業準備等の補助業務を行う学校業務支援員の配置や教員の意識改革等を推進することで、教員が児童生徒に接する時間を十分確保するとともに、その専門性を生かした真に必要な総合的な指導を継続的に行うことのできる環境を創り出します。

また、すべての学校への留守番電話の設置、長期休業中（夏季・冬季）の閉庁日の設定や朝型・夕型勤務、スポーツリーダーバンク※（周南市体育協会）を活用した部活動の支援、学校給食費管理システム導入による事務の軽減等により、教員の業務負担のさらなる軽減を図ることで、ワーク・ライフ・バランスを推進し、自らの人間性や創造性を高め、より効果的な教育活動の充実に取り組みます。

☆ 成果指標・目標 ☆

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	備考
児童生徒1,000人 当たりの不登校児童生 徒数	小学校 4.7人 中学校29.0人	減少させる	学校教育課調べ
小・中学校におけるい じめの解消率	小学校82.2% 中学校76.6%	100%に 近づける	学校教育課調べ
「いじめはどんな理由 があってもいけないこ とだ」と思っている児 童生徒の割合	小学校96.7% 中学校96.6%	100%	全国学力・学習 状況調査 (小学6年生・中学3年生対象) (文部科学省)
学校運営充実のための 自己点検シート(県教 委作成) I-3「学校安 全・危機管理」の評価 平均(5点満点)	3.8点	4.3点	学校教育課調べ